

新川会通信

第42号

すまいる

発行

社会福祉法人新川会

〒930-0362
上市町稗田字七郎谷1-32
Tel (076) 472-1118
Fax (076) 472-5391
E-mail yotsubaen@niikawakai.jp
IP http://www.niikawakai.jp/

発行責任者 久保 進



ふくささばきのお稽古



平成30年度四ツ葉園祭



私はこの春に、四ツ葉園の茶道教室のお稽古を渡部先生から引き継がせて頂きました。葉園では今のところ月に一度だけですけど、六人でわいわいとお茶を楽しんでおります。四ツ葉園さんのような環境に伺つた経験があまり無く、最初は緊張しましたが、みなさんは初日から明るく迎えてくださり、胸が熱になりました。そして、みなさんのお茶好きが思ひしなくななことと言つたらもう！お点前もご自分が飲みたいと手を挙げられますが、お茶のおかわりしなくていいとおもひました。そこで、お茶の時間がつくりたいと思います。どうぞお気軽に一服飲みにいらしてください♡

お茶好き！

茶道教室講師 加藤則子



つつじ苑は、現在三十七名の方が在籍されており、生活介護班には、十四名の方が利用されています。

活動内容は、ビーズ通しやパズルなど指先を使つた機能訓練の他に、毛糸を使ったマスコットやビーズキーホルダーなどの自主製品作りに取り組んでいます。利用者

の方が作った作品は、苑の行事や地域の即売などで販売し人気となっています。

天気の良い日には、隣にある行田公園へ散歩に出かけ、四季折々の草花を見ながら体力作りに励んでいます。

就労継続B型班は、二十三名の方が利用されています。

作業は、タオル伸ばしやバリ取りの作業を行っています。他には滑川市からの委託作業として、古いの風鉄道滑川駅と地鉄中滑川駅の地下道掃除を行っています。年末にはカレンダー巻きや昆布巻き



のシール貼りの仕事も行っています。

自主製品として、機織りコースターやバスボム作りにも取り組んでいます。中でも人気の商品がよもぎの入浴雑貨です。身体の芯から温まるリピーターのお客様も多いです。

また今年度よりつつじ苑敷地内に鉢植えでブルーベリー栽培を始めました。

きっかけは、つつじ苑が設立された十年前にブルーベリー摘みをさせていただいたご縁があつた滑川市二塚にある滑川ブルーベリー



園の園主である桶川克己さんに連絡をとつたところ、ブルーベリー園の草むしりのお手伝いをさせていただきながら、栽培方法も教えていただきました。中でも人気の商品がよもぎの入浴雑貨です。身体の芯から温まるリピーターのお客様も多いです。

ブルーベリーは酸性の土壌を好みます。また夏場の水管理や日射しのこと、肥料の施し方等々、簡単に出来るものではありません。

つつじ苑では三年計画で栽培マニュアルを策定し収穫したものをブルーベリージャムやドライフルーツとして販売することを目標としています。



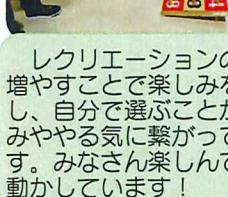
トンネルや人工芝で障害物を作り歩行時のメリハリが生まれました。



旗揚げゲーム



輪投げゲーム



レクリエーションの幅を増やすことで楽しみを増やし、自分で選ぶことが楽しみややる気に繋がっています。みなさん楽しんで体を動かしています！



介護予防運動
腹筋運動だけでなく体幹やバランスを養うことができます。

日中活動のパターン化と、高齢の利用者さんの増加により、利用者が楽しみながらADLや身体機能を維持でき、より効果的な活動メニューを取り入れるため、また、介護予防メニューの適切な介助と効果を学ぶため、富山医療福祉専門学校より作業療法学科専任教員の渡邊純子先生を講師に迎え、定期的に訪問相談を行っています。

四ツ葉園だより

四ツ葉園では、利用者の生活の充実や暮らしやすさの向上を目指して、毎年外部から講師を招いて助言指導を受けています。今年度は、特に「体育館での日中活動」「ADL（日常生活動作）の維持」「ミュージックケア」に焦点を当てて外部団体から講師に来ていただき、それぞれの活動に取り組みました。これら3つの取り組みについて紹介します。

療育班

（富山医療福祉専門学校から）

毎日の生活の活性化のために ～外部講師を招いての取り組み～



始めは緊張感がありましたが笑顔で楽しむ姿が見られました★



利用者全員が参加してミュージックケアをする機会を作っています。利用者の年齢や特性、ADLが様々なので参加の仕方も様々です。利用者さんにいつもと違うセッションを楽しんでほしい、利用者さんがそれ自然に楽しめる関わり方を学びたいと考え、音楽療法の外部講師を招き、一時間のセッションを実施していました。

（ミュージックケア）

食事の時に背中を丸めて食べている利用者さん

誤嚥のリスクあり！

椅子の前脚に補助具を置きましょう！

実施すると…

姿勢がよくなり誤嚥が減った！

今後、利用者の高齢化に伴い、生活全般での相談が増えてくると考えられます。利用者一人ひとりのADLに応じた提案指導を取り入れ、みんなが安全で安心して生活するための支援を行っていきたいと思います。

（富山県障害者相談センターから）

～外部講師を招いての取り組み～

～外部講師を招いての取り組み～

雷鳥苑だより



美味しい!

そのカレーライスの美味しいことと言つたら、利用者さんも毎回夢中でカレーをほおばります。ピリッと辛いそのカレーは利用者さんにとって、冬を乗り切る活力となります。

食べ終わると自然に『ごちそうさまでした』『また来年』の言葉が聞こえてきました。

十一月二十九日 立山町料理飲食店業組合より、昼食にカレーライスとサラダをふるまつていただきました。毎年この時期になると立山町の各飲食店舗の皆さんがお忙しい中、雷鳥苑の利用者さんの為に、腕を振るいに来てくださいま

販売しました。
全国から集まつた選手の皆さんに雷鳥苑をPRできま
した。

今年はトンボのマスコットを作りました。



立山町障害者社会参加促進事業の一環で行っている、交通安全週間のマスコット配りでは、警察官・ボランティアの方々と路上で、雷鳥苑の利用者が作ったマスコットを、運転手に配り、交通安全を呼びかけています。

地域イベント

工房よつばだより



その後魚津市のサンプラザにてアロマスプレーの製作を行いました。様々な香りのサンプルを嗅ぎながら、オイルを組み合わせてオリジナルのスプレーを作ります。種類と配合を変えることで、リラックスできる香り、気分をスッキリさせる香りなど一人ひとり少しずつ違う仕上がりのものになりました。完成したスプレーは、皆さん仕事前に服やマスク等につけて使用しています。シユッと振りかけると、良い香りが作業室内に広がります。

自分で乗車券や食券を購入したり、電車やジャンボタクシー等の公共交通機関を利用したりして、普段の生活ではなかなか出来ない体験や、あまり意識することのないマナーの学習が出来たと思います。ちょっとしたハプニングがありながらも楽しめ、今回はジャンボタクシーで目的地まで移動しました。



さつき苑だより

さつき苑祭

絵画教室で描いた絵など
を展示しました。利用者
の皆さんとの日頃の活動

十月六日
(土)に『第一〇
回さつき苑祭』
を開催しました。

や、自主製品を見て、いたく良い
機会となりました。

利用者による出し
物では、ハンドベル
で『星に願いを』を演
奏しました。また、今

年開催されたねんりん
ピック富山のテーマである
『キトキト夢体操ねんりんピッ
クバージョン』のダンスを披露し
ました。発表の後は、来場された

方々から大きな拍手を頂き、利用
者の皆さんからは安堵と満足げな
笑顔が見られました。

午後のアトラクションでは、小
林先生による「笑いヨガ」を行
いました。利用者と保護者の皆さん
が一緒に参加でき、体を動かす機
会となり笑いあふれる楽しいアト
ラクションとなりました。

今年もさつき苑祭では、元祖富
山ラーメン「ひげ」さんの出店も
あり、保護者の方々をはじめ、地
域の方々や、多くの方が来苑され
て、とても盛況でした。

苑内の展示では、利用者の皆さ
んの普段の活動の紹介や、書初め、



つつじ苑だより

つつじ苑祭

夫氏が作詞作曲した
「時計台の鐘」等の素
敵な曲に皆さんうつと
り聴き入つておられました。最

後は、つつじ苑利用者も加わり、
皆さんよく知っている「踊る
ポンポコリン」「ヤングマン」を
演奏に合わせて歌ったり踊つた
りと大いに盛り上りました。

用者ファーストを
テーマとして、自治
会役員を中心模擬

店のメニュー決め、買
い出し、当日の手伝い、
司会、ナレーション等を利
用者の方々に担当してもらいま
した。

午前のアトラクションでは、

立山相甚会の方々による相撲甚
句が行われ南京玉すだれを使つ
た囃子歌を楽しみました。

次に、「つつじ苑の十年を振り
返つて」のスライドショーが行
われました。その年ごとの世相
と併せてつつじ苑の活動を振り
返りました。皆さん、つつじ苑
の十年を感慨深げに懐かしんで
おられました。

午後からは、滑川市吹奏楽団
の方々による演奏が行われまし
た。滑川市出身の音楽家高階哲





十一月二十一日、二十二日に富山県で行われた「北陸地区知的障害者地域支援部会・相談支援部会合同研修会」に参加しました。一日目は中央情勢報告と惣万佳代子氏による基調講演（「共に生きると共生社会」）がありました。惣氏が「障害者を特別なものとしてではなく、地域でお年寄りから小さな子供までいる当たり前の環境の中で障害者も暮らしていく、そんな豊かな人間関係の中でこそ人は育ち、一人ひとりが輝ける」と話されました。

二日目は三つの分科会（グループホーム・居宅介護・相談支援事業）に分かれて意見交換が行われました。私はグループホームの分科会に参加し、他の施設のグループホームで行われる活動内容や実際に合った事例などを聞きました。小矢部市に共生型で一階に認知症高齢者、二階に障害者が住んでいるグループホームがあり、その事例発表で一つ屋根の下で生活している高齢者と障害者は、それぞれのユニットに行き来をして会話を楽しんだり、休日には障害者が高齢者ユニットで掃除やシーツ交換、外出の付き添いなどをしているとのことでした。

障害者が支援される側から支援する側へとなり、自分の存在感や人の役に立つ喜びを味わうことがきていました。二日間の研修で、私は「共生社会」について考える機会となりました。

普段のように高齢者や子供がいる環境で自分たちもいろいろな経験をしてきました。その環境を

研修会に参加して

地域生活相談室

網谷 知晃

地域相談室だより



二日目には、うけいをののたりは普通前当で印言し象葉いだてた。たたかくとあります。そのときに支

障害者にも提供することで、障害者と支援者だけの生活では経験することができないことも経験できます。今後も共生社会の充実に向けて、様々な整備がされていくかが大切になってしまいます。「障害を特別にせず、だれもが地域で共に暮らしていく」という言葉を忘れないでこれからも支援にあたっていこうと思います。

研修報告

リスクマネジメント
研修に参加して
四ツ葉園支援係長 岡崎 明子

平成三十年九月六日、七日の二日間「リスクマネジメント研修」を受講しました。

リスクマネジメントとは「危機管理」起こりうるリスクを想定し、損害を最小限に対応するということです。支援者は、人間であるがゆえに、エラー（事故）をゼロにはできないが、対策により事故を軽減することは可能であり、ヒューマンエラーを防止できることを学びました。一度起きた事故は、検証・対策しなければ必ず再発するということです。また、事故に至らなかつたヒヤリハットの事例にも、原因



の分析をして、安全性を向上させることができます。具体的に事故報告書の活用と分析方法（六種類のツールの使用）での対策が紹介されました。いずれも基本は「状況の把握」であり、①何が②なぜ③どのように起こったのか、これらのこと実をしっかりとおさえることだそうです。その為、常に危機予測をしてなぜ起こったのかの原因を潰すよう意識し支援したいと思います。またどんな人でも自分らしい生活を制限されると、そこに抵抗しようとする力が働き予測不能な行動となり、事故に繋がるリスクが高まるという話がありました。そのようなことからも、利用者の要求を可能な範囲で受け入れられるよう、意思決定支援を意識しながら個々のリスク（生活する上で困難なこと）をしっかりと把握し、個別支援計画に結び付け、信頼関係を築き、日々のコミュニケーションをこれからも大切にして、自分らしさい生活・安心感のある生活を過ごせるように努めたいと思います。